

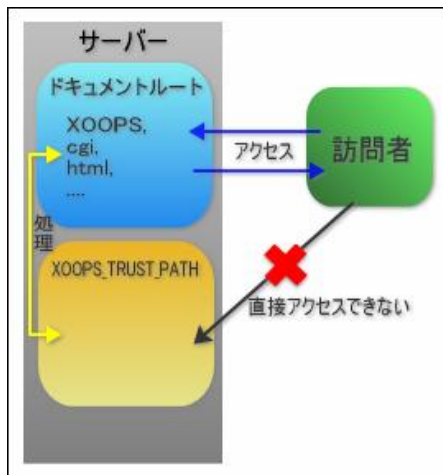
XOOPS_TRUST_PATH と Bulletin

1. XOOPS_TRUST_PATH とは？

Bulletin はバージョン 2.0 からモジュール複製機能が Duplicatable V3 にバージョンアップしました。この Duplicatable V3 の支えとなるのが、まさに XOOPS_TRUST_PATH の存在です。

おそらく XOOPS_TRUST_PATH という用語を初めて耳にする XOOPS ユーザも多いかと思います。では、XOOPS_TRUST_PATH という概念はどこから来たのでしょうか。その答えは XOOPS のコアをいくら探しても見つかりません。なぜなら、XOOPS_TRUST_PATH は、XOOPS コアが提供するものではなく、モジュール開発者¹が提唱したものであるからです。そのような背景があるため、これまで XOOPS を使ってきたユーザは新鮮な概念として感じるでしょう。

なぜわざわざ新しい概念の XOOPS_TRUST_PATH を取り入れなければならないのかと疑問に思われたかと思います。この概念も別に無駄に取り入れたわけではありません。しっかりした意味があります。



まず、XOOPS_TRUST_PATH は、サイト閲覧者に見せる必要のないファイルをドキュメントルート外（サイト訪問者がアクセスできない場所）に追い出すことができます。

どういうことかと申しますと、例えば [http://\(あなたのホスト\)/modules/news/include/search.inc.php](http://(あなたのホスト)/modules/news/include/search.inc.php) はおそらくブラウザで直接アクセスできるでしょう。しかしこのファイルは XOOPS の検索機能を news モジュールにも適用するためのファイルです。このファイルは他のプログラムが読み込んで実行するだけで、

サイト訪問者が直接アクセスするファイルではないことはご存じでしょう。

このファイルはあくまで例で危険性はありませんが、このようなサイト訪問者にとって不必要なファイルを、サイト訪問者がアクセスできるようところに晒しだしておくことが実は問題²なのです。こうしたファイルは .htaccess などアクセスを拒絶することもできますが、.htaccess を利用できないサーバーなどでは対策が野放図になるわけです。

XOOPS_TRUST_PATH は、ドキュメントルート外に、不必要なファイルをしまうので、それらのセキュリティの諸問題を一掃してくれます。

つぎに、複製機能を持つモジュールが XOOPS_TRUST_PATH を利用することで、バージョンアップが容易になるという利点があります。

¹ Protector などの開発者である GIJOE さんの発案が根底にあります。

² 直接アクセスを想定していないプログラムに直接アクセスすることは思わぬ脆弱性の原因になりえます。

従来の複製モジュールですと、バージョンアップがあるたびに、複製したモジュールをひとつひとつアップデートする必要性がありました。これは実に大きな手間です。DuplicatableV3 ではモジュールの処理の中心となるファイルたちを XOOPS_TRUST_PATH にしまいこみ、サイト訪問者がアクセスするのは /modules/bulletin/ 以下のファイルのみになりました。そうすることで、XOOPS_TRUST_PATH においたファイルを一回上書きするだけで、ファイルの更新が完了し、あとはシステム管理のモジュール管理で「アップデート」をクリックするだけの作業ですむようになります。

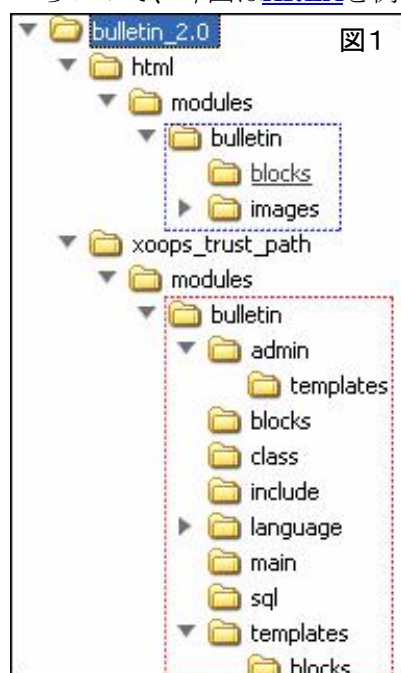
現時点では XOOPS_TRUST_PATH を用いたモジュールの数は少ないですが、今後この有用性が理解されるにつれて普及してゆくはずです。XOOPS 管理者の皆さんには初めは親しみにくいものかもしれませんが、XOOPS の次世代を見つめ、今のうちに慣れておいても損はないことでしょう。

<参考 web サイト>

GIJOE さん	“XOOPS TRUST PATH”	(2006/5/14 5:21:28 掲載)	2006/06/17 参照
同上	“Duplicatable V3”	(2006/5/13 6:13:40 掲載)	2006/06/17 参照

2. XREA での Bulletin のインストール例

XOOPS_TRUST_PATH の概念についてはおおよそ説明しました。ここからは実際に Bulletin のインストールを通して XOOPS_TRUST_PATH や DuplicatableV3 に触れてみることにしましょう。サーバーによっていろいろ環境が変わってきて、具体的な説明がしづらいので、今回は [XREA](#) を例に取って説明します。











- [suin.jp](#) から bulletin2.0 をダウンロードし、解凍してください。

解凍すると図1のような構成のファイルがあるかと思います。先取りして説明すると、青い点線で囲んだファイルが通常のコジュールがあるところにアップロードするもので、赤い点線で囲んだファイルは XOOPS_TRUST_PATH に所属するものです。

- 通常のコジュールのアップロード同様に、あなたの XREA のアカウントに FTP で接続して、図1の青い点線で囲んだファイルをアップロードしてください。news や system, protector などのモジュールの仲間に“bulletin”も加わりましたでしょうか。





- c. 先ほど b. でアップロードしたディレクトリ“bulletin”はお好みのディレクトリ名に換えてしまって構いません。ここでは仮に”mynews”とでもしておきます。みなさんは自由にディレクトリ名をつけてください。あえて、「bulletin のままで」というのもあります。

- d. FTP で/virtual/(あなたのアカウント)のディレクトリを開いてください。そこには、Maildir, log, public_html などのディレクトリが有るかと思います。わたしのサーバーは古いので、secure_html や shared_html などのフォルダもあります。

	Maildir	Directory	4096
	log	Directory	4096
	public_html	Directory	4096
	secure_html	Directory	4096
	shared_html	Directory	4096
ファイル数: 4096			
	mysql.1075979701.dump	DUMP File	144
	mysql.dump	DUMP File	75
	mysql2.1138604399.dump	DUMP File	144
	mysql3.1138605300.dump	DUMP File	144

XOOPS コアは public_html にあり、サイト訪問者は public_html 以下にあるファイルのみ閲覧できます。

/virtual/(あなたのアカウント)ディレクトリに“xoops_trust_path”というディレクトリを新しくつくります。ちなみにディレクトリ名は”xoops_trust_path”にこだわる必要はありません。各自の趣味で自由に名付けてください。

	public_html	Directory	4096
	secure_html	Directory	4096
	shared_html	Directory	4096
	xoops_trust_path	Directory	4096

私はそのままゆくので、私の XOOPS_TRUST_PATH は/virtual/(私のアカウント)/xoops_trust_path になりました。

- e. xoops_trust_path ディレクトリを作ったら、そのディレクトリの中に”modules”ディレクトリを新しくつくります。作った modules ディレクトリの中に図 1 の赤い点線で囲んだファイルをアップロードしてくださいしてください。

/virtual/(あなたのアカウント)/xoops_trust_path/modules/bulletin/…ができあがったかと思います。

- f. /virtual/(あなたのアカウント)/public_html/mainfile.php を開いてください。そうしたら以下の一行を XOOPS_URL の定義の直前に書き加えます。

```
define('XOOPS_TRUST_PATH','/virtual/(あなたのアカウント)/xoops_trust_path');
```

もし、“xoops_trust_path”を違うディレクトリ名にした人は、自分のもの書き換えてください。

- g. 最後に XOOPS 管理画面から Bulletin モジュールのインストールを行えば、無事インストール完了です。どうでしょう。できたでしょうか。
- h. それでは、欲張ってもうひとつ Bulletin をインストールしてみましょう。2 つからの Bulletin のインストールはうんと簡単になります。この説明の b, c, f の順番で作業をするだけで済みます。

3. Bulletin 1.x からバージョンアップするには

Bulletin 1.x から 2.0 へバージョンアップする時もやはり、XOOPS_TRUST_PATH を作らなければなりません。そのため、「2. XREA での Bulletin のインストール例」の手順にそのまま沿ってバージョンアップ作業を行ってください。

忘れてはならないころは、b.でただアップロードするだけではなく、古いバージョンの Bulletin のファイルをすべて削除することです。また、基本的にモジュールはアンインストールするまでディレクトリ名を変更できないので、古い Bulletin のディレクトリ名は必ず引き継ぐ必要があります。

4. Bulletin 2.0 を今後アップデートするとき

Bulletin 2.0 は今後 2.01, 2.02...といった具合に、次へ次へとバージョンアップしていくでしょう。そのときは以下の手順に従ってアップデートしてください。

- a. 新しいバージョンの Bulletin 2.x を入手する。
- b. 解答して、そのなかの `xoops_trust_path` フォルダに含まれるのほうの `bulletin` フォルダを `/virtual/(あなたのアカウント)/xoops_trust_path/modules/bulletin/` に上書きアップロードしてください。
- c. 最後に各 Bulletin モジュールに「モジュール管理で」アップデートを実行するだけです。